



中学広報部長
寺坂今日子先生



広報部長
池田正寿先生



中高コース教頭
久光洋子先生

Report 4

筑紫女学園高校
(福岡・私立)

未来を見すえた主体的な学びの現況を
学校パンフレットや生徒の姿で発信

変化を伝え、保護者と共に
生徒の学びを支える

筑紫女学園高校は、数年前からこれまで以上に広報に力を入れている。「自律」「和平」「感恩」を校訓とする同校は、生徒が主体的に考え、協働し、自ら発表する学びを以前から行っていた。中高一貫校として、今春高校生になる生徒たちが中学1年生のときから、2020年の新大学入試を見すえて準備してきた。しかし、

「本校は伝統ある仏教校ということでは世間からは堅苦しいと思われがちで、実態があまり伝わっていなかったのです。本校の良さをもっと打ち出さなければ」と(池田先生)

教育改革のことも広報している。

「今の保護者の方々は受験競争を乗り越えてきた世代。教育改革の流れをあまりご存知ない方もいて、昔の価値観で子どもの勉強を応援しようとする、それが生じることがあります。何がどう変わるかを伝え、共に生徒を支えていけるようにすることは、学校の役割だと考えたのです」(久光教頭)
そうした発信にさらに厚みをもたせ

たのが、2016年度末に発足したプロジェクトチームだ。教務部・進路指導部・広報部・グローバル教育部などの部長や学年主任で構成。そのチームが各教科や各分掌の先生に、教育改革を踏まえた取り組みや課題の洗い出しを依頼し、皆で情報も共有して、学校が何を目指してどんな取り組みをしているのかを整理した。

そしてその全体像を「創・MIRRAプログラム」と名付け、学校案内のパンフレットでも提示。大学合格がゴールではなく、未来をどう生きていくかを見すえた学びであることを打ち出した。また、夏ごろから主に保護者向けに配るパンフレットでは、学びの形が変わる社会的な背景から解説したうえで、取り組みをPRした。

「パンフレットや説明会では『自分たちの伝えたいこと』ではなく『生徒やその保護者の方が知りたいこと』を入れるよう意識しています」(寺坂先生)

主体的に未来に向かう
生徒の姿を感じてもらおう

興味をもった親子が訪れる学校説明会にも大きな特徴がある。受付や案

図1 自校の学びを伝える取り組み

「生徒・保護者の知りたいこと」
を届けようとした学校パンフレット



生徒向けパンフではイラスト多めで学びの全体像を紹介。生徒・保護者向けパンフでは、入試をはじめ「何がどう変わるか」を紹介してから、それに対応した学校の取り組みを紹介している。



「生徒のおもてなし」で
運営される学校説明会



生徒が受付や相談窓口を務めるほか、ステージでも教員の説明だけでなく、生徒のプレゼンや部活動の発表が行われる。

学校データ

1907年創立 / 学年制普通科 / 生徒数1515人(女子1515人) / 進路状況(2017年3月実績) 大学437人・短大1人・専門学校13人・就職1人・その他78人 /

学校説明会アンケート抜粋

保護者の声

在校生に、娘に目指してほしい姿をみた

- 生徒さんが主体性をもって説明会の役割を担っておられるのを感じ、教養の深さを感じました。
- 生徒さんたちの気持ちの良い挨拶が嬉しかったです。娘に目指してほしい姿があったように思います。
- 生徒さんの発表や先生方の話を伺うにつれ、素晴らしい学校であることが伝わってきて感動しました。接してくださった在校生の姿に、娘も感じる場所があったのではないかと思います。

取材・文 / 松井大助